



児童デイサービスNEWS



T君がスクーターに乗った

まごころの児童デイサービスは平成18年10月以降も経過措置として、従来の形態による事業運営を継続します。新制度が要求する人員配置の条件(サービス管理責任者の配置など)を満足出来ない為ですが、障害児童が自立する為の支援は継続していきます。但し給付額が減額されるので10人の児童に対しスタッフの人数を6人から5人にさせていただきました。今後も安全には十分配慮しながら、児童デイサービス継続のための努力をしてまいります。

一宮市地域生活支援事業について・・・

去る9月26日に事業説明会が一宮庁舎でありました。一宮まごころも「移動支援事業」を一宮市から委託されて行います。一宮市が委託して行う「地域生活支援事業」は以下の事業です。

事業	主な対象者	内容	料金(1割負担分)
移動支援	児・者 屋外移動が困難な方 (※重度訪問介護・行動援助対象者を除く) ・視覚障害者(1,2級の方) ・全身性障害者 ・知的障害者 ・精神障害者	○ 社会生活上必要不可欠な外出支援(通院の為の外出は、介護給付となるため除く) ・ 公官庁や金融機関への外出 ・ 公的行事、冠婚葬祭への参加 ・ 生活必需品の買物等 ○ 社会参加のための外出支援 ・ 余暇活動、レクリエーション等	～0.5時間 150円 ～1.0時間 260円 ～1.5時間 370円 ～2.0時間 470円 ～2.5時間 570円 以後30分ごとに80円加算
地域活動支援センター	者 身体、知的、精神障害者(生活介護、経過的デイサービス授産施設等に利用者は、対象外)	創作活動又は生産活動の機会の提供等	基本 460円/人/日 加算 入浴 40円/回
日中一時支援	児・者 日中において監護する者がいない身体、知的、精神障害児者	日中の活動の場を提供し、障害児者の家族の就労支援及び介護している家族の一時的休息を図る事業。	下記参照
経過的デイサービス (H18・10月～H19・3月末)	者 デイサービスを必要とする障害者(生活介護、地域活動支援センター、授産施設等の利用者は、対象外)	地域活動支援センター等の事業に移行することが困難な障害者デイサービス事業所が移行するまでの間継続して行うデイサービス。	基本 460円/人/日 加算 入浴 40円/回
生活サポート	者 障害程度区分非該当となった支援が必要な障害者	家事援助等	150円/時間

※ 日中一時支援事業
4時間以内の利用を1回とする。

区分	児童			障害者					
	1	2	3	1	2	3	4	5	6
負担分	123円	148円	189円	123円	123円	141円	156円	189円	222円

一宮まごころでは移動支援事業のみ実施します。

ミニデイだより



秋の世

〇さんが、新聞の切り抜きを持って来られました。スタッフのKさんの入選作の川柳が載っていました。

乱れた世の中であるが、子供は山上億良が言ったように、宝物のように大事にしないと何事かと言う事を詠んだものでした。

Kさん「考えられないねえ。親が子供を捨てるなんて。」

〇さん「恐ろしい世の中や。子供も親を殺すものねえ。」

「どうなってんの。私なんか戦争中食べ物が少ない時、子供だけにはと一生懸命育てて来たのになあ。今は何かが悪い。何やろう？」

「甘やかし過ぎ。ぜいたくし過ぎやないか。」とFさん。

「何でも大事にせん。すぐ物を買うくせに、すぐ捨てる。世の中くるつとるんや違うか！」

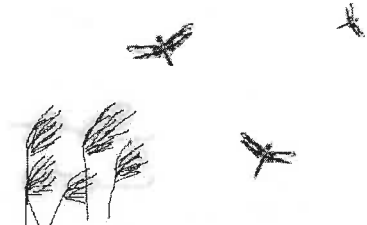
「ここでは言いたいこと言いたい放題。世の中の話、うちら間違ってるかも知れんけど。まっすぐ生きてきたんやで。やっぱり間違っていないと思うよ。」

「こんどの総理大臣だれがええ？」

「だれでもええけど。わしは、〇〇〇さんに入れようかな。」 ええ！！

絵を描きながら、次から次へとお話が出てきます。よく見ると少々毛が少なくなった絵筆、硬くなりかけた絵の具を大事に使っておられます。申し訳ない気持ちになりミニデイの翌日、新しい絵筆と多色の絵の具を購入させていただきました。

これからの、人生が美しく、すてきな色で描けますように。



原稿募集

あなたの「心に残る思い出」をお待ちしています。400字程度にまとめてお寄せ下さい。

心づれづれ



母への手紙

小川裕紀子(協力会員)

御無沙汰しています。いかがお過ごしでしょうか。

振り返ると、いつも働き続けで、病気でもするのではと、一時は心配しましたが、ますます忙しい毎日のようですね。

私が子どもの頃、広い田畑を守る為、朝早くから、遅くまで、身体を休める時もありませんでした。

私が学校からもどると、待っていてくれたのはいつも祖母でした。汗びっしょりで畑から戻ってきた姿を追い、トイレまで付いていったことを覚えていますか。

忙しくしていましたが、学校の行事には、必ず着物で来てくれていましたね。勉強の様子を見られるのは恥ずかしいけれど、着物姿で現れた母は、私の自慢でした。

祖父母が他界し、私たち姉妹は地元を離れて独立し、父も長い間の闘病の末亡くなり、七人家族から、とうとう母独りきりになってしまいました。広い家での独り暮らしは、寂しいだろうと、電話をしてみるといつも留守、風邪をひいてはいないだろうかと心配していると、元気な声で、

「60年振りに、地元のおどりが復活するけん、毎日おどりの練習に公民館に行きよっと、おどりをしっとるとは、もう、私ぐらいしかおらんけんねえ」と言う調子で、おどろかされるのはいつも、私です。その、元気のパワーはどこからくるのですか。教えてほしいです。

時々、どうしてこの仕事を選んだのと、聞かれることがあります。

『私の母は、遠くに住んでいます。いつも側にいたいのですが、それができません。父や、母のことを思いながら、自分のために仕事をしています。』と、答えています。近隣に支えられ、頼りにされている母の姿を見るのは、私の手本です。いつまでも元気でいて下さい。

季節かわりの折柄、お体ご自愛くださいますよう、遠い空からお祈りしております。

追伸

今度は新米と、野菜が届くのを楽しみにしています。

題字/澤田清敏さん